

たかさご史話 47 「伊保庄本」北野天神縁起絵巻

「北野天神縁起絵巻」とは、醍醐天皇を廃する企てをしたとして大宰権帥に左遷された右大臣菅原道真の生涯と道真の怨霊の仕業、そして京都北野社の創建をあらわした絵巻物の総称です。現存する最古のものは、北野天満宮所蔵の国宝「承久本」で鎌倉前期に制作されたものです。

この絵巻はその後多数制作されており、播磨地域にも優れた作品が残されています。津田天満神社（姫路市）に伝わる重要文化財「津田本」は、鎌倉末期の永仁六年（一二九八）に藤原親泰が施入した三巻本で、県内に残る最も古い天神縁起絵巻とされています。

この「津田本」の詞書や絵の影響をうけて制作されたと思われるものに「伊保庄本」があります。絵巻は一卷のみで、「津田本」の下巻に相当するとされており、奥書によると応永十年（一四〇三）に「播

磨国伊保庄社」に寄進されたものです。寄進したのは近江

宮」に寄進されたことが記されています。

国永源寺（現、滋賀県神崎郡永源寺町の臨濟宗寺院）の僧侶、霊仲禅英です。この絵巻は、いつの頃か「伊保庄社」を出て江戸時代には加賀国梯神社（石川県小松市）に移り、現在は出光美術館（東京都）が所蔵しています。筆者は、曾根神社で作成された複製本を拝見しました。

このように天神縁起絵は、南北朝期から室町・戦国期にかけて数多く制作されましたが、その他にも束帯姿で怒りに満ちた表情を示す「束帯天神像（綱敷天神像）」や、中国禅僧のもとに参禅した天神が法衣を授けられたとする説話に基づく「渡唐天神像」などの天神絵も制作されています。

播磨には、明徳二年（一三三九）九一）と応永二年（一三九五）の奥書を持つ「英賀心永本」も残されています。三巻のうち、上下二巻が「津田本」の系統に属するとされています。英賀神社（姫路市）にはこの他に「英賀永正本」（三巻）も伝来しており、その奥書には、

さらに室町・戦国期の自治的村落の連帯を担う場では、天神に因んだ「連歌会」が開催されるなど幅広い階層にその信仰が受け入れられたことも見逃せません。そして天神（社）は、怨霊である雷神から菅原道真という人格を祀る道真信仰へ、あるいは菅原家の家業である学問神としても崇敬され、現代に受け継がれているのです。

永正四年（一五〇七）に美作国小吉野庄内真壁村（現、岡山県勝田町）で制作され、永禄七年（一五六四）に「英賀東林泉禅庵」の僧侶、周栄記室禅師によって「当所天満

（市中編さん専門委員

梶木良夫）